

II 特別シリーズ II

科学技術
振興機構 『さくらサイエンスプラン』 友情と感激

第208回

東北大学の活動報告

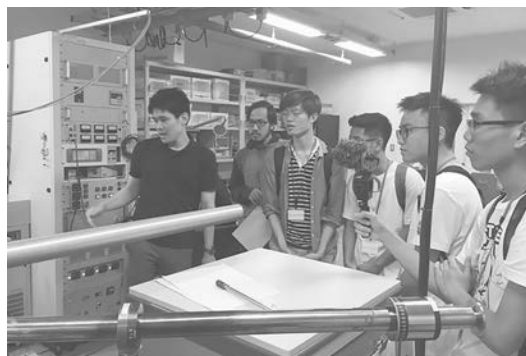


渡邊由美子
(東北大学 高度
教養教育・学生
支援機構 教授)

ベトナムの高校生ら招へい
プラ等ゴミの再利用方法学び

東北大学高度教養教育・学生支援機構は令和元年7月29日(8月3日の6日間、科学技術振興機構(JST)「さくらサイエンスプラン」の支援を受けて、ベトナム社会主義共和国ハイフォン市のチャンフー特別高校から2年生3名と引率教員1名を本学に招へいました。

東北大学では、全ての教育を英語で行う国際学位プログラム「フューチャー・グローバル・リーダーシップ(FGL)プログラム」の一環として、2011年から世界各地の優秀な高校生のために理工系分野(理学、工学、農学)で3つの国際学士コース: Advanced Molecular Chemistry (AMC)、International Mechanical Aerospace Engineering-Undergraduate (IMAC-U)、Applied Marine Biology (AMB)を提供しています。今回招へいた高校生は、このプログラムが昨年度実施した「FGLチ



AMCコースでの研究室訪問



IMAC-Uコースの説明会

ヤレンジ・イン・ベトナム・ビデオコンテンツ」という高校生向けイベントの優勝チームメンバーです。来日初日、ベトナムから高校の先生が引率者として同行しているとはいえ、初めての日本で羽田から仙台まで無事列車を乗り継いで移動できるのか、不安に思いながら仙台駅新幹線改札口で一行の到着を待ちました。駅構内の地図や各駅での乗り換え方法などを、考えつく限りの情報を事前に送った上、到着後もメールをチェックしていることを期待して、「待ち合わせ場所の改札口名」について再度連

プログラム	
1日目	羽田空港到着後、陸路仙台に移動
2日目	オリエンテーション、FGLプログラム紹介 東北大学オープンキャンパス参加(川内キャンパス) AMCコース紹介(片平キャンパス) 研究室訪問 ベトナム出身学生を交えて歓迎会
3日目	東北大学オープンキャンパス参加(青葉山キャンパス) AMBコース紹介と研究室訪問 IMAC-Uコース紹介と研究室訪問
4日目	仙台市ゴミ処理施設見学 東日本大震災被災地研修
5日目	山口副学長表敬訪問、成果報告会、送別会
6日目	羽田空港でお別れ、帰国



仙台市ゴミ処理施設の見学。ゴミの分別収集、汚染物質を出さないゴミ処理技術、プラスチックを含めたゴミの再利用方法について学んだ



招へいのきっかけとなったビデオコンテンツにおける彼らの作品「Protect the water」は、プラスチック製品による海洋汚染問題とその対策をテーマとしたものですが、4日目には、仙台市葛岡にある仙台市のゴミ処理プラントを見学し、ゴミの分別収集、汚染物

絡していましたが、予定の列車が到着した後、いくら待っても姿が見えませんが、結局その日打ち合わせとは全く違う場所、大きな駅の出口で途方に暮れていた彼らと会うことができたのは、列車到着時刻を30分も過ぎた後でした。このような滑り出しでしたが、来日中のトラブル(?)は、この1回だけで、その後は全ての活動をスムーズに実施することができました。

来日2日目と3日目は、FGL学生3コースがある3つのキャンパスを訪問、それぞれのコースの概要説明を受けた後、現役FGL生の案内で、全国でも有数の規模を誇る「東北大学オープンキャンパス」に多くの日本人学生とともに参加しました。オープンキャンパスは、まさに本学のシヨークースともいえるべき機会です。彼らも国際学生コース以外の教育・研究施設、およびカフェテリアや体育館などの学生支援施設も訪問することができました。



山口昌弘副学長(中央)とともに

「さくらサイエンスプラン」の支援を積極的に活用させていただき、特にアジア圏の高校生に日本の大学の教育研究、科学技術について紹介する機会を提供していきたいと考えています。

質を出さないゴミ処理技術、さらにはプラスチックを含めたゴミの再利用方法について学びました。「日本でのコンピュータ管理されたゴミ処理施設や、その技術をぜひベトナムに導入し、環境問題を解決したい」と熱く語る姿に希望を感じました。

その後、2011年の東日本大震災において壊滅的な被害を受けた宮城県沿岸部の津波被災地域を見学、震災遺構・荒浜小学校で震災当日の状況、被害について学んだほか、復興事業の一環として建設された津波に配慮し、1階部分に居住スペースがない復興高層住宅震災から7年経過して新たに設立された河川沿いの復興商店街、最新科学技術を用いた海産物養殖研究所などを見学しました。荒浜小学校では、校舎に残る津波の生々しい傷跡や被災当日のビデオ映像などに大きな衝撃を受けた様子でしたが、被害跡地での復興事業の様子から、津波の甚大な被害から多くを学び復興の道を歩む日本人の姿勢にも感銘を受けた様子でした。

本学訪問の最終日、8月2日には、東北大学副学長でグローバルセンター長でもある山口昌弘先生を表敬訪問し、今回の訪問のきっかけとなったビデオ制作のことや本学の印象などについて歓談しました。午後は、FGLプログラム担当教員や在籍学生に対して、訪問を通して学んだことや仙台や本学の印象について3人でスライド発表しました。これらの行事には、ベトナムの高校で彼らに日本語を教えていた藤原先生が神戸からわざわざ参加してくださり、より思い出深い機会となりました。

実施後のアンケートでも「日本への留学を検討したい」と回答して、将来につながる活動になったと考えています。本学では、昨年秋季にも「さくらサイエンスプラン」の支援を受け、タイの4高校から理工系分野に興味のある10名を招へいし、本学の教育と研究の紹介を実施しました。今後